

6月3日は県総体男子バレーと柔道の応援に行きました(会場が近かったので)。男子バレーはベスト8をかけて東播工業高校との



対戦に臨みました。1セット目リードしていたのに逆転され失うなどミスが目立ちましたが、2セット目を修正して取り直すと3セット目は決めるのをしっかりと決め勝利に結びつけベスト8に。午後からの尼崎双星高校との対戦では相手を寄せ付けずベスト4に入りました。4日に行われた

準決勝は須磨翔風高校との対戦でしたが、勝利を収め市立尼崎高校との決勝に臨みました。リードを奪う場面もあったようですが、「凡事徹底」の横断幕通りに堅い守備からの攻撃で本校につけている隙を与えてくれませんでした。決勝までは勝ち上がるものの壁は厚いようです。今後の奮闘に期待しています。お疲れ様でした。



柔道では団体戦の応援に行きましたが、女子は残念ながらベスト8で敗退。階級別でないだけに苦戦が予想されたのですが、惜しいところで負け、個人戦での雪辱を誓っていました。男子は、2回戦で高砂高校と対戦。2勝2敗からの大将戦で決まるというきわどい勝ち方に気持ちを引き締めて臨んだ報徳戦では力を出し切れず敗退。男子もベスト8という結果に終わりました。個人戦では、

女子48kg級で横山選手(写真右)が優勝を飾り、インターハイ出場を決めてくれました。おめでとうございます。女子57kg級の増田選手はまたしても準優勝で涙をのんだようです。他に男子100kg超級で神戸選手が膝の故障から復帰し3位に入ったようです。さらに上記の選手を含め女子3名、男子4名が国体選考会に出場することになったそうです。今年は3年ぶりに国体も行われると思います。頑張って兵庫県代表となってください。お疲れ様でした。

6月4日5日は県高体連バドミントン部長としてバドミントン競技に行きました。団体では男子が準優勝、女子がベスト8だった



ので、個人での奮起に期待しました。ダブルスは男子の岡田山内ペアがベスト8に入りました。シングルスは男子で岡田選手がベスト8に入ったものの準々決勝で村野工業の第2シードに敗れました。女子はシングルスで高橋選手がベスト16に入りました。なかなか強豪校の壁は破れません。ベスト4以上を男子はすべて村野工業高校、女子は園田学園高校が独占。厳しい戦いは続きますが、同じ高校生です。工夫して、強くなって壁を乗り越えてほしいです。お疲れ様でした。

さらに私が応援に行けなかった部の結果です。卓球部は県総体団体1回戦で村岡高校に敗戦。2年生が主力なので新人戦に期待です。ソフトボール部は2回戦を勝ち上がり、神戸星城高校と対戦。5回まで同点だったようですが、終盤力尽き負けたようです。しかしながら3年生には満足感が漂っていたということでよく頑張ってくれました。お疲れ様でした。放送部はアナウンス部門で東播磨・淡路地区予選会に永藤さんが出場し見事予選突破し県大会準決勝に出場するそうです。頑張ってください。

6月6日は校長の研修会があり、ジャパン・インターカルチュラル・コンサルティングのロッシェル カップ社長が来られて、「世の中の変化に応じる組織運営」についての講演を聞きました。「世の中の動きが早くなっており、ソフトウェアが世界を飲み込んでいるとも言われる時代に必要なことは早く考えて行動修正しフレキシブルに動けることが重要である」ということから始まり、「グーグルの研究では成果の出たチームの特徴は優秀な人材の集まりではなく、どのように構成メンバーがコミュニケーションをとり目標に向かえたかが大事で、そのためには心理的安全性が保証されなければならない」といわれました。心理的安全性とは誰もが恥ずかしくせずに意見し

合えるということだそうです。私たち教員だけでなく生徒たちにもとても大事なことで、参考になりました。さらに「自分の弱みは修正しようとしていつも気にしているが、自分の強みに気づいていない人は多い」とも言われ、私が生徒との面談時にいつも言っている「自分のウリ」を知ろうということを私たち教員も知らなければならないことを改めて気づかされました。自らの強みと弱みを知り、活かせるようになることでこれからの予測できない社会に対応できる人材の育成を目指すという学校の使命を感じた講演でした。その後は班別研修など、各学校の取組を聞き、さらに考えを深めることになりました。最後は人権教育課から人権についての取組についての講話と、兵庫県教育次長の講話があり、校長としてすべきこと、考えて行かねばならないことなど改めて県の施策と共に意識を高めることになりました。先生方とも共有しながら生徒の皆さんに還元できることは還元し、社高校を前に進めていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

最後に県総体等の応援でいろいろな部に行かせていただきましたが、部によって保護者が会場には入れたり、入れなかったりという状況でした。しかしながら感染状況も少し落ち着きを見せ始め、熱中症対策と並行する形でのマスク着用の制限緩和など日常を取り戻す方向に進んでいます。今後、さらに制限緩和に向けて進むことになると思いますが、一人ひとりの感染防止意識の向上が大事になってきます。校外での活動では、この場面では外して、この場面では着用して等判断が個人に任されるケースが増えてくると思えます。暑さ対策、梅雨対策と共に健康管理もしっかりと行い、悩み事や相談事がある場合は恥ずかしがらずに担任、部顧問に相談をするようにしてください。まずは健康であっての教育活動です。1学期後半頑張っていきましょう。